

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立金岡北中学校
校長 上川 紀久恵

中学校区におけるめざす子ども像 主体的に学び続ける子
①自ら進んで、行動・実践・省察することができる力 ②他者とつながり、共感・協働できるコミュニケーション能力 ③失敗を恐れず、チャレンジする力 の育成をめざす

令和7年度 重点目標
【未来を生き抜く学力と人間力を備えた生徒の育成】 ○すべての生徒の学びを保障する学校づくり ○生徒も教職員も安全安心な学校づくり ○地域・保護者から信頼される学校づくり

<p>「確かな学び」の現状 ○学級・学年での班活動を通じた集団づくりや行事等で異年齢集団を大切にしたい集団づくりを大切にしている。これらの取組を通して、生徒の責任感や達成感の醸成・静謐な教育環境の維持・互いを認め合い高め合うつながりの構築が成果として見られる。 ○生徒の「学力向上」に向けて「生徒が自ら課題をつかみ、他社と協力して主体的に課題解決する力をはぐくむ」を研修のテーマに掲げ、継続的に取り組んでいる。今年度は、授業全般でICTを効果的に活用し、個に応じた深い学びにつなげる取り組みを進める。学びを生き方につなげられるよう「考える」生徒の育成をめざす。 ○一人ひとりの生徒の実態に応じた指導を心がけているが、特別支援教育の視点や生徒指導提要に掲げられている生徒支援(伴走支援)の視点からの生徒理解を深めていく必要がある。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 ○3年間を見通した「人権教育」「道徳教育」「思春期教育」で「違いを認め合う心」「他人を思いやる心」の育成に努めている。生徒が教員に相談できる環境づくりや生徒理解のために、学期始めと学期後半に教育相談を実施している。今年度も、生徒同士および生徒と教員をつなぎ、いつでも誰にでも困り感を出せる関係性の構築をめざす。登校しにくい生徒や遅刻・欠席の多い生徒が多数みられるため、関係諸機関との連携やいじめ防止等の組織的な取組が必要である。 ○生徒たちは体育の授業に意欲的に取り組み、運動部への入部率も高い。怪我や熱中症等の予防についての自覚を高めながら体力の向上を図っていく。給食開始に伴い、食の大切さについても学びを深め、実生活につなげさせたい。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	基礎基本	○全教科における生徒の実態に即した指導の充実	●習熟度別少人数授業の実施 ★授業でのペアワーク・グループワークの充実	実施率	実践報告	年度末	A 少人数でのペアやグループでの学び合いや課題解決の姿勢が身につけてきている。	A 少人数でのペアやグループでの学び合いを行っている。	A 「学びのコンパス」が具体的にどのようなかを教員、生徒、保護者、地域で共通理解し、より効果が出るように取り組まれるとよいと思う。
			「金北スタンダード」をベースにした「学びのコンパス」の実施	実施率	実践報告	年度末	B 研修で「学びのコンパス」について共有できたが、実践はさらなる充実が求められる。	B 「学びのコンパス」についての理解が進み、相互授業研究後の教員のアンケートでは、それに基づいた授業を行うことができているという回答が7割程度であった。	B
	授業力向上	○「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業 ○生徒の「自ら学ぶ力」の育成	★自ら学びを進める授業づくり ●ICTの効果的な活用による授業改善	「授業は工夫され、わかりやすい」の肯定率	アンケート	年度末	B ICT活用インフルエンサーを招聘し、研修や個別指導を受けた効果が出始めている。	B ICTの活用は進んできている。	B ・勉強の仕方を教えるような授業があってもよいのでは。 ・「自主学習ノート」というネーミングを変えてはどうか。生徒たちは「自主」だからしなくてもよいと思っている。「家庭学習ノート」「復習ノート」でもよい。やったら効果が出るという実感や意義が得られれば定着するのでは。
			授業力向上研修の実施と研究授業の実施 相互授業見学の実施	実施率	実践報告	年度末	A 年間行事計画に組み込み、滞りなく実施できている。	A ・提出する生徒にばらつきがある。全生徒の6割程度の提出率である。 ・生徒が進めやすいように生徒向けの手引きを作成したので次年度はそれを効果的に生かせるようにしたい。	A C
豊かな心・健やかな体	心 の 教 育 ・ 生 徒 支 援	○自尊感情を高め、自他ともに認め合う豊かな心の育成	●生徒会・学級代表・学年行事の実行委員会等の活動の充実 主体的な活動によるリーダー育成 全ての生徒が自らの役割を果たしながら活躍し、互いを認め合う集団づくり	アンケート調査で肯定的な回答が80%以上ある。	学校アンケート 学校生活アンケート	年度末	A 生徒会や委員会活動が生徒主体となるよう努め、委員長会議の発足や校則改正などの活動を生徒たち自身で進めていくことができた。日々の生徒指導の記録を全教職員で共有し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決につなげることができている。	A 生徒会を中心に校則改正に向けて意見を取り入れ、進めていくことができた。次年度の体操服登校の実施の有無についても生徒の意見と教職員の意見を参考に進めていく。日々の生徒指導の記録を全教職員で共有し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決につなげることができた。学校生活アンケートは生徒たちへの聞き取りも行うため行事や定期テスト期間と重ならないように配慮が必要である。	A B
			●生徒の実態把握・いじめの未然防止・早期発見・早期解決を目指した組織体制の構築 教育相談の充実	計画の100%実施する。 アンケート調査で肯定的な回答が80%以上ある。 実施後のふりかえりシートを記入する。	実施報告 学校アンケート	年度末	B 思春期教育、人権教育、道徳教育を予定通りに進めている。 差別につながる可能性のある発言が生徒間であり、指導を行った。生徒たちの変容を見ていく必要がある。	B 人権文化学習会では同和教育について講演を行った。差別につながる発言を防ぐために集会や学活での指導を各学年で取り入れた。	B
			生命の大切さへの理解と自分や相手を大切にすることの育成にむけた思春期教育の実施	計画の100%実施する。 アンケート調査で肯定的な回答が80%以上ある。 実施後のふりかえりシートを記入する。	実施報告 学校アンケート	年度末	B 思春期教育、人権教育、道徳教育を予定通りに進めている。 差別につながる可能性のある発言が生徒間であり、指導を行った。生徒たちの変容を見ていく必要がある。	B 人権文化学習会では同和教育について講演を行った。差別につながる発言を防ぐために集会や学活での指導を各学年で取り入れた。	B
体力向上	○望ましい生活習慣の定着 ○安全面を意識した運動への取り組み	課題解決や体力向上、運動への興味関心の向上と運動習慣の確立をめざした、体育の授業の工夫改善 ●怪我や事故・熱中症等の予防教育による安心安全な活動の実施	体育の授業で実施する。	体育ノートの状況 今年度の新体力テストの結果 怪我等の発生率	年度末	A ICTを活用した授業への工夫に努め、生徒が意欲的に取り組めるようにしている。安全教育を徹底し、熱中症や事故、怪我の予防につなげている。	A ・タブレットを用い、自身やペアの動作を撮影し、分析を行った。 ・大きな事故は起こっておらず、水泳の授業を二学期にも行ったため、熱中症の生徒も少なかった。	A	
		「生活習慣振りかえり期間」の設定による望ましい生活習慣への意識の醸成 改善に向けた実践力を要請するため、全教職員で「生活習慣振りかえりシート」の結果分析を実施	学期毎に「生活習慣振りかえり期間」を実施する。	生活習慣振りかえりシートの結果	年度末	B 自らの生活習慣を振り返る期間を設け、教育相談等で指導助言を行っているが、改善されない生徒が一定数存在する。	B ・2・3学期に「生活習慣振りかえり期間」を実施し、望ましい生活習慣への興味関心を高めた。ノーメディアや朝食の習慣化など「毎日続ける難しさ」が鮮明になりアプローチ方法を検討する必要がある。	B	
連携・協働	小中連携・地域協働	○校区小学校や地域との連携および小中一貫教育推進体制の構築 ○学校情報の発信	★小学生への中学校紹介等を実施 ★学期ご1回以上の小中情報交換の実施 ★課題解決に向けた小中教職員合同研修や授業交流会の実施	計画の100%を実施する。	実施状況 学校アンケート	年度末	A 計画通りに実施し、堺市の実践事例に取り上げられ、他校のモデルとなっている。	A ・小学生の授業体験や部活動見学を実施し小中の連携を深めた。 ・校区の4校で情報交換を積極的に行い、課題解決に向けて小中教職員合同研修や授業交流会を実施した。	A
			学校と地域で、「地域清掃活動」「あいさつ運動」の実施 各種行事やPTA活動における、参加しやすい活動内容と業務負担の改善・整理 ●「金北通信」「学年通信」「学校ホームページ」での情報発信	計画の100%を実施する。 本校の教育活動が分かりやすいように目的などの説明を入れた発信に努める。	実施状況 学校アンケート	年度末	A 計画通りに実施した。 各種行事やPTA活動における、参加しやすい活動内容と業務負担の改善・整理を実施した。情報発信も滞りなく行っている。	A ・生徒会、各種委員会、教員で、「校外地域清掃」を行った。 ・生徒、教員ともに3校区の行事等に参加し、地域の方と交流を深めた。 「金北通信」「学年通信」「学校ホームページ」で、学校の情報を積極的に発信した。	A A

校長より (年度末)
学校群の本格実施や部活動の拠点校化・地域移行、不登校対応、学びの見直し、「学びのコンパス」を軸にした授業改善など、さまざまな変革が起こっている状況において、今後も学校の様子をしっかりと発信し、地域や保護者のみなさまと共通理解を図ることが重要だと考えます。そのうえで、無理なく効果的な教育活動を推進できるよう今後も教職員一同、力を合わせて努めてまいります。

学校関係評価者から (年度末)
生徒の主体性を伸ばし、活躍の場を増やしながらも、教職員の健康などにも留意することが必要で、例えば地域の定例会や地域行事への学校の参加の見直しなども考えてはどうかと思っています。生徒の主体性をより高めるために、先進校のやり方なども取り入れていかれることを期待します。